

令和7年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネカメムシ（No. 1）

令和7年8月6日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

7月22日～7月31日に行った早植え、極早生品種等、既に穂揃い期を迎えた水田におけるすくい取り調査の結果、イネカメムシの発生確認地区は前年より多く、県全体の発生量は前年より増加している。これから早生品種ほ場で出穂期～穂揃い期を迎えるにあたり、被害を最小限にするために、発生状況に応じた本田防除を徹底する。

2 発生状況

(1) 7月31日現在の巡回調査定点地区における発生状況は表1のとおりである。

ア 東部では前年同時期より発生確認地区数が増加しており、地域全体の発生量が増加していると推察される。一方、中部では概ね前年並みの発生量である。

イ 西部では発生量の地区間差が非常に大きく、密度の高い地区がある。

(2) 7月31日現在、東部及び西部では、周囲より出穂の早いほ場への集中飛来が確認されている。

表1 病害虫防除所巡回調査定点地区におけるイネカメムシの発生状況

調査地区	すくい取り虫数（令和7年）			令和6年度の同時期調査の結果				
	ほ場1	ほ場2	ほ場3	発生ほ場率	発生ほ場の平均すくい取り虫数			
東部	鳥取市	嶋	0	1	0	0	0	
	鳥取市	国府町	玉鉾	3	0	0	0	
	鳥取市	気高町	重高	1	1	2	0	
	鳥取市	河原町	福和田	0	1	—	0	
	鳥取市	用瀬町	鷹狩	2	1	1	0	
	岩美町		蒲生	2	1	—	0	
	八頭町		見槻中	0	0	0	0	
	若桜町		須澄	0	0	0	0	
	智頭町		三田	0	0	0	0	
	中部	倉吉市	蔵内	16	2	—	100	20.0
		小鴨	6	—	—	100	29.3	
倉吉市		関金町	今西	0	0	2	33.3	2.0
琴浦町			美好	0	0	—	0	0
西部	米子市	東八幡	0	0	0	—	—	
	伯耆町	二部	8	49	16	50	1.0	
		吉長	7	—	—	—	—	
	江府町	洲河崎	1	0	—	—	—	
	日野町	小河内	2	1	—	—	—	
		黒坂	0	0	0	0	0	
	日南町	矢戸	0	0	0	0	0	

注1) すくい取り虫数は25往復50回振りすくい取り虫数を示す。表中の—は調査未実施を示す。

3 防除上注意すべき事項（7月11日付け令和7年度病害虫発生予察注意報第1号を参照）

- (1) イネカメムシは、他の斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシなど）と異なり、イネ科雑草に寄生する個体数は少なく、雑草管理では発生密度を低減できない。そのため、水和剤もしくは粉剤による本田防除を徹底する。
- (2) 発生が多い地域では、出穂期～出穂直後（不稔対策）及び穂揃い期～乳熟初期（1回目の7～10日後）（斑点米対策）の2回防除を行う。特に昨年被害が発生した多発地域では、出穂期にイネカメムシによる集中加害を受けると、著しい不稔が発生することから、減収防止のために出穂期の防除を徹底する。
- (3) 未確認地域、少発生地域では、出穂前後の慣行防除の徹底により、発生地域拡大と地域全体の発生量増加を防ぐ。
- (4) 周辺より出穂が極端に早い、又は遅いほ場では、本種の飛来が集中するため、このような条件のほ場では発生状況を注意深く観察し、発生が確認された場合は防除を徹底する。
- (5) 薬剤散布にあたっては、農薬使用基準を遵守するとともに、蜜蜂被害軽減対策などに注意する。